

イチ押し

地域経済の活性化を語る

県内首長に聞く リレーインタビュー②

所沢市 藤本正人 市長



「都市のブランド力を高め、選ばれるまちを実現したい」と語る藤本正人市長

2011年10月の市長選に立候補した際に、“動け！所沢 紡ごう！絆”をキャッチフレーズに掲げました。国内全体が少子高齢化や経済の低迷で閉塞感が漂い、先の見通せない状態だったからで、この所沢も同じような状態でした。市民の『とにかく所沢を動かしてほしい』という願いに応えようとしたものですが、この標語は、地元経済の活性化にもつなげる、ということです。所沢という都市のブランドを高めるためには、市民の力が必要で、そのためには市民も自らが動いて頂かなければなりません。

幸い、この所沢にはブランド力を高めるコンテンツが豊富にあります。首都圏に近く緑豊かな自然・田園風景、3つの大学に、埼玉西武ライオンズと埼玉ブロンコスという2つのプロスポーツ、さらには日本で初めて飛行場が誕生した『航空発祥の地』といった歴史的遺産などです。その事を誇りに思う市民が多く、市民意識調査では8割の市民が所沢に愛着を持ち、7割の市民が今後も定住したい

とのことでした。このブランド力を一層高め、『選ばれるまち』を目指していきます。11年度からスタートした第5次所沢市総合計画・基本構想には、実現に向けた取り組み方針が盛り込まれています。その上で、まち全体の価値を高めることによって、まちへの信頼と好感度を上げ、他の自治体から目標とされるまちを実現したいと思っています。特に経済面での『選ばれるまち』実現への取り組みでは、地域が持つ資源や商品などを『個別ブランド』、都市そのもののイメージを『都市ブランド』と定義しました。これらが相互に関連することで市外の住民から『住んでみたい』、『訪れてみたい』あるいは、企業や事業者からは『事業の拠点にしたい』と思われることで、経済を活性化させることを目指していきます。

では、具体的に会社や人を呼び込むにはどうするか。例えば、市内にはまだ多くの暫定調整区域があります。これらを見直すことで開発が進み、人が集まって来るでしょう。企業や事業者に対しては、関越自動車道所沢インターチェンジや、圏央道入間インターチェンジに近い地域に企業を誘致していくことも一案です。企業立地が進めば、雇用も増え税収の増加も期待できますからね。一方で、環境に配慮したまちづくりも必要なことから、『マチごとエコタウン所沢構想』を策定することにしました。これまでも循環型社会の形成のため、市では施策を展開してきましたが、それをさらに進めていくものです。まだ緒に就いたばかりですが、12年度からエネルギー賦存量と利用量の調査や、市民意識の調査などを実施する予定です。全国にはエコタウンで有名な都市がありますが、できれば所沢は

一気に再生可能エネルギーを全家庭に広めて、マチ丸ごとエコタウンに持っていきたい。そうすることで、環境ビジネスの活性化にもつながるものと考えています。

話は変わりますが、この4月から行政組織の一部を見直しました。市民サービスと経済部門の両方を担当していた市民経済部を分離独立させ、市民部と産業経済部に分けました。産業経済部には産業振興課と商業観光課、農業振興課の3課があり、それぞれ専門的に取り組んでいきます。産業振興課では、これまであまり目が行き届かなかった工業分野にフォーカスして、11年度に実施した製造業の『事業所操業環境状況調査』を分析しながら、関係者の意見を踏まえて何が必要なのか、新たな振興策を立案したいと考えています。商業観光課では、商店街の活性化をさらに図っていきませんが、何しろ市内には11の鉄道駅があり40を超す商店街が存在しています。それぞれに特徴があり、近隣住民の利用形態も違いますので、実態を十分に把握したうえで活性化策を考えていきます。

商店街で問題となっている空き店舗については、実態調査を11年度に実施していますので、その結果を踏まえながら対策を講じていきますが、第一歩として新規出店者のための補助制度を導入しました。若者の起業を促すことも狙いとして、1件当たり120万円の補助金を用意しています。観光面では、冒頭にも述べましたがプロスポーツや自然、特産物などの情報を効果的に発信して所沢市を訪れる人を増やしたい。12年度は観光の魅力を映像でまとめたDVDを作成し、動画サイトへの掲載も視野に発信していきます。また、所沢は映画のロケ地としても使いやすいため、フィルムコミッションで売り込む価値があるのではないかと考えています。エキストラとして市民を登場させてもらえれば、何かと活性化につながるかもしれませんね。



所沢市では毎年、新茶まつりを開催し、航空公園駅前の茶園で茶摘み体験を行うなど、狭山茶をPRしている。

農業分野では、サトイモやホウレンソウ、ニンジンも県内でも有数の生産地で、狭山茶の産地としても知られています。ご承知の通り、狭山茶は風評被害で大きな打撃を受けました。一刻も早く元の状態に戻さなければなりません。11年度から引き続き、業界団体に対して緊急支援事業を行っていますが、それとは別に市職員みんなで共同購入を行うなど、各種の応援プロジェクトを展開しながら、一気に売り込んでいきたいと思っています。

このように市内企業の支援や新たな産業の創出に力を入れていきますので、地元金融機関は資金面などで積極的な支援をお願いしたい。同時に当市へ進出したい事業所の情報を提供して頂ければありがたいですね。ぶぎん地域経済研究所には、行政にとって必要な経済情報をタイムリーに発信して頂ければ…。

今回は、東松山市の森田光一市長にバトンタッチします。

所沢市の概要

人口（平成22年国勢調査）	341,924人
世帯数（同上）	141,225世帯
65歳以上人口（同上）	70,413人
面積（同上）	71.99平方キロメートル
平成22年工業統計による事業所数	291
製造品出荷額等（同上）	1,631億円
平成19年商業統計による事業所数	2,270
年間商品販売額（平成19年商業統計）	4,623億円